

2015年2月19日

**日本プロテオーム学会**  
**第1回理事会(2015-2017年理事)**  
**議事録**

日時 平成27年2月6日(金) 16:00~18:00

会場 オフィス東京 A4 会議室

(〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目6番8号 コルマ京橋ビル)

出席者 足立、石濱、植田、尾野、梶、川上、木下、木村、久保田、小寺、  
小松、榊原、曾川、朝長、中神、服部、松本、横田、和田(計19名)

欠席者 上家、高山、長野、成松、本田、山本(計6名)

(敬称略)

**(1) 会長挨拶**

- ◇ 「プロテオミクス」のプレゼンスを示す(研究予算獲得、若手研究者のポジション確保にも重要)。
- ◇ 日本学術会議の協力学術研究団体に申請
- ◇ 学会誌の発刊

**(2) 役割分担について**

前期の理事会で今度から役割分担をするという合意の下、委員を設置。

朝長代表から下記の担当に関する新規取り組み、目標などを説明

**庶務委員**

- ◇ 新たに副をつける

**会計委員**

- ◇ 学会予算の全体の把握、学会費未納入者の把握。
- ◇ 前庶務担当理事より予算を引継

**広報委員**

- ◇ 会員数を増やし、維持するための工夫。
- ◇ プロテオーム研究者の掘り起こし。

**学会誌編集委員**

- ◇ ウェブ学会誌を発行。
  - ▶ 日本学術会議の協力学術研究団体に申請するために団体の機関誌が必須（書籍である必要なし）
  - ▶ まずは不定期で。最初は学会賞等を受けた方が寄稿する。

#### 学術企画委員

- ◇ 他学会にプロテオーム領域での学会セッションを設けるなど。
- ◇ 大会（年会）にて他学会の主要研究者に発表を依頼。

#### 国際委員

- ◇ HUPO, AOHUPO, KHUPO などの海外との窓口。
- ◇ 海外研究者招聘の窓口。

#### 大会（年会）委員

- ◇ 大会の補助的な役割
- ◇ 次期大会長予定者が務めることで予習的效果を期待。

#### 教育委員

- ◇ 大会初日の技術セミナーは毎年非常に好評であるため、より一層の充実を図る。
- ◇ 質量分析学会にならって（年2回）あるいは共同で講習会等を開催するのはどうか。  
関東を曾川先生、関西は足立先生

### **(3) 規約の一部改正について**

#### 朝長会長より説明

- ◇ 庶務担当理事を主1名、副2名とする。
- ◇ 常務理事が形骸化している（学会主催者も含んでいた）ため、常務理事を執行部会と名を代えて、固定にする。
- ◇ 執行部会は会長、副会長、庶務担当理事（主1名、副2名）とする。

規約の改定について満場一致で承認

#### 規約に関する議論

- ◇ 規約の第3条に JHUPO の話がすぐに出てくることに違和感。すぐに改定するなど難しいかもしれないが、問題意識を持つべき。
- ◇ HUPO 対応機関とは？。国際 HUPO の理事選出等の役割。窓口となっている。
- ◇ 諸々承認しながら会議を進めるべき

- ◇ 現時点では理事の役割について承認をとり確定するのは良くない。
- ◇ 融通が効かなくなる。やりながら流動的に対応すべき。

#### (4) 日本学術会議の協力学術研究団体について

##### 朝長会長より説明

- ◇ 本学会ならびにプロテオミクスのプレゼンスを示すことを目的として、日本学術会議の協力学術研究団体への申請を目指す。
- ◇ このために学会誌を発刊する。

##### 和田先生からのアドバイス

- ◇ 日本学術会議は現在は科研費の審査等には一切関わらない。
- ◇ 協力学術研究団体になっても特に明確なメリットはないが（デメリットもない）、一応学術的なお墨付き。

##### 学会誌創刊に関する議論

- ◇ Web で Journal とすると無料だが組版にする必要はあるので出版社に依頼する必要がある。
- ◇ pdf として DL としても恥ずかしくないフォーマットを作る必要がある。  
(J Chromatography は editor が組版等の作業をやっている)
- ◇ 学会誌は査読が必要か？
- ◇ まずは査読なしで（学会賞等を受けたものを）。
- ◇ HP から投稿できるシステムを作る。
- ◇ 学会誌の目指すところは
- ◇ 本格的な学術誌として認知されることを目指すのか？
- ◇ プロテオーム関連雑誌は 30 以上ある（乱立気味）
- ◇ とりあえず始める理由は設立書に書いているから。
- ◇ やりながら、その上を目指すかを議論する。
- ◇ 国内誌があればメリットはある。植物系では IF5 超えた。弊害もあり（学位審査用に固くアクセプトと取れる雑誌でなくなった）。
- ◇ アジア・オセアニア地区での雑誌に対するニーズがあるなどの機運が高まれば。本格的な学術誌に発展させるのもあり。

#### (5) 年会について

##### 熊本大会について

- ◇ 登録は 4/3 から受付開始。登録後身分が変わらないように（学生会員登録で年度が変わることがあるため）。

## 来年度北里大会について（服部先生から）

- ◇ 大学のカリキュラム変更に伴い諸々不安定なので、現時点では確定できないことも多い（熊本大会ぐらいまでに決まりそう）。
- ◇ 7月第1週と第二週を抑えてある。

## 大会運営に関するフリーディスカッション

- ◇ 大会費の差分（黒字）を学会に入れることはどうか？
- ◇ 現在は法人でないので大丈夫と思うが、道義的に難しいかも。
- ◇ 大会の費用は1000万ぐらいで、登録システムが大きな割合を占めている。
- ◇ 去年は200万ぐらい使っていた。
- ◇ 自前でやろうとするとセキュリティーの問題のハードルが高すぎる。
- ◇ システムの買い上げをしてもカスタマイズに経費が結局必要。
- ◇ ソースを含む買取は数百万に金額が跳ね上がる。
- ◇ 現在、学会と大会参加の登録システムが別々。
- ◇ 今年の熊本大会はすでに会社（えーいー企画？）が担当することが決まっている。
- ◇ 次の学会（北里）では学会本体が大会に関与し、効率的に行う（とくに演題登録システムなどに関して）。

## (6) 和田先生からのコメント、アドバイス

- ◇ 学会のアーカイブも必要ではないのか
- ◇ 各年のプログラム等の回収・保管すべき。
- ◇ 任意団体だからといって、税金が無いわけではない。
- ◇ お金集めれば税金は発生する。
- ◇ 法人化する時のために、経理をしっかりとしておく必要あり。

## (7) その他

- ◇ JHUPOの呼び名について
  - 正式名称は日本プロテオーム学会であるが、呼び名としてJHUPOを使っていると植物や動物などヒト以外の研究分野の人が入りにくいので、呼び名ならびにロゴを変える方が良いのではないか。
  - 規約には英語名はJapanese Proteomics Society (JPS)となっているので、JHUPOにこだわる必要はない。
    - ◇ JPSは日本物理学会と同じである。
    - ◇ 略称としてJPrOS, JProXなどの意見が出た。
- ◇ 次期理事会（年会に開催予定）で各担当の状況報告のお願い。